

第1回 伏木富山港長期構想検討委員会における主な意見

委員会開催日：令和7年2月4日（火）

分類	発言要旨
物流・産業	3地区の役割・機能分担の明確化及び機能再編も必要。
	新たな臨海型企业誘致、次世代エネルギー受入拠点や上屋等を整備するため、水面埋立て（遊休地活用、外港展開）による背後地拡大が必要。
	人手不足に対応した機械化・ITによる効率化、利便性の向上などDXによる作業効率化・省人化を官民連携で図るべき。
	仕向国としてのロシアの存在はかなり大きい。環日本海貿易の拠点としての戦略や機能拡充が必要。
	バルク貨物が多いのが特徴であり、ヤードの拡張やリサイクルポートとしての機能充実など特色を活かした施策が必要。
	既存インフラを活用した、船舶とトラック、鉄道を組合わせた最適物流の展開が必要。連続した重要物流道路網の構築が必要。
	エッセンシャルワーカーである港湾労働者の確保が重要であり、港湾の労働環境改善に向けた官民一体の取り組みが必要。
	コンテナターミナルの埠頭用地、背後緑地の拡大が必要。
観光・海洋レクリエーション	景観に配慮したクルーズ船の受入環境の向上や荷役作業の効率化を図るため、貨物船と旅客船の係留施設の分離を図ることが必要。
	旅客船ターミナル（カーフェリーを含む）を整備してほしい。
	時代のニーズに沿った新たな海王丸パークのリニューアルが必要。
	港周りの観光施設等の充実に加え、インフラツーリズムなど観光と連動させた取り組みも必要。
環境	脱炭素化に向けた次世代エネルギー受入拠点整備が必要。
	2024年問題に伴い、フェリー・RORO船の利用が全国的に増えているため、モーダルシフトの観点からもフェリー等の誘致を図るべき。
	今後の気象変動による潮位上昇対策が必要。
安全・防災	災害時における太平洋側のバックアップの観点から、港湾施設の強靱化対策に加え、リスク分散を図るうえで企業誘致活動も必要。
	能登半島地震の教訓を踏まえ、物流機能を維持するための液状化対策や荷役機械の二重化が必要。
	船舶の航行安全に十分な配慮が必要。